

平成 24 年度保険改定により歯科に周術期口腔機能管理と考え方が導入され、さらに平成 26 年度保険改定により医科点数表にも口腔機能管理について歯科医院への紹介に点数が配置され、医科歯科の連携を評価する仕組みが作られた。

しかし、歯科医院の多くがいわゆる総合医で、いままで紹介などの他施設との連携に慣れていない土壌があると同時に、連携のために必要な設備投資などには消極的で、歯科における医療連携がなかなか進まないのが現状である。

このような流れの中で、徐々に様々な取り組みがなされており、少しずつ成果を上げ始めている。

今回、そのような事例をご発表いただき、さらなる広がりへの一助になることを目指す。

まずは、吉松先生に大学病院での事例で、医科を受診している周術期口腔機能管理対象者を歯科と連携させるために周術期口腔管理センターのチームで情報共有できるような取組についてお話しいただく。

大学での事例に続き、西田先生に歯科口腔外科のある総合病院で周術期口腔機能管理を導入するために必要となる医科への働き掛けでの問題となった点と努力した点と準備しておく点をお話しいただく。

続いて、富山先生に、平成 26 年度保険改定によりさらなる医療連携を進める方向が示されたが、それに対しての日本歯科医師会の情報連携に関する考え方や現在の状況をお話ししていただく。

最後に、中安先生より厚生労働省の指導的立場より、歯科としてどうあるべきか、歯科で動きつつある包括医療の一環としての取り組みを実例をもとに話を進めていただくこととした。

最後に、以上の発表をもとに、現在の歯科における連携の現状を、参加者と共有すると同時に、医療連携をよりスムーズにまた効率的に行えるように解決すべき問題を洗い出すための総合討論を行う。